

震災復興小学校について

1. 震災復興小学校とは

大正12年の関東大震災で被災した東京市内の117校の小学校で、東京市が震災後から震災復興事業が終了した昭和6年までの間に復興事業として建設した小学校である。震災後の体験から、新しい校舎建築は当時まだ珍しかった鉄筋コンクリート造とし、設計作業の簡易化を図るべく、設計規格が採用され、いずれの小学校も格差なく、ほぼ同一のスケールで計画されている。ただ、外観については設計者の裁量に任され、1910年代から20年代当時、西欧で流行した表現主義などの影響を受けた斬新なデザインが採用されている。

2. 本区の震災復興小学校

当初区内全域に分布していた震災復興小学校は、統廃合や建築物の老朽化による解体、行政需要への対応のための建替えなどにより、現在、区内に現存する震災復興小学校は6校である。

建築名称	所在地	竣工年	構造規模
黒門小学校	上野 1-16-20	昭和 5 年 7 月	RC. 3 階
東浅草小学校 (待乳山小学校)	東浅草 2-27-19	昭和 3 年 5 月	RC. 3 階
旧小島小学校	小島 2-9-10	昭和 3 年 8 月	RC. 3 階
旧柳北小学校	浅草橋 5-1-35	大正 15 年 11 月	RC. 3 階
旧下谷小学校	東上野 4-7-9	昭和 3 年 12 月	RC. 3 階
旧坂本小学校 (※)	下谷 1-12-8	大正 15 年 11 月	RC. 3 階

※関東大震災で焼失はしなかったが、同時期に鉄筋コンクリート建築で建て替えられた小学校